



令和5年5月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

令和4年12月29日

上場会社名 ファーマライズホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2796 URL <http://www.pharmarise.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 秋山 昌之
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 沼田 豊 (TEL) 03-3362-7130
 四半期報告書提出予定日 令和5年1月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 令和5年5月期第2四半期の連結業績(令和4年6月1日～令和4年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
5年5月期第2四半期	25,745	△0.6	573	△27.3	566	△30.4	72	△71.0
4年5月期第2四半期	25,903	0.9	788	50.1	814	51.8	250	96.5

(注) 包括利益 5年5月期第2四半期 77百万円(△69.5%) 4年5月期第2四半期 252百万円(105.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
5年5月期第2四半期	7.76	5.93
4年5月期第2四半期	26.94	20.34

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
5年5月期第2四半期	23,306	6,692	27.4
4年5月期	23,746	6,699	26.9

(参考) 自己資本 5年5月期第2四半期 6,388百万円 4年5月期 6,399百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
4年5月期	—	0.00	—	14.00	14.00
5年5月期	—	0.00			
5年5月期(予想)			—	14.00	14.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 令和5年5月期の連結業績予想(令和4年6月1日～令和5年5月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	51,794	0.4	1,411	△7.2	1,379	△9.1	397	△11.3	42.27

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料11ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	5年5月期2Q	9,746,645株	4年5月期	9,673,785株
② 期末自己株式数	5年5月期2Q	321,100株	4年5月期	321,100株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	5年5月期2Q	9,375,777株	4年5月期2Q	9,310,100株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) キャッシュ・フローに関する説明	4
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	11
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(令和4年6月1日～令和4年11月30日)におけるわが国経済は、ウィズコロナの下で、景気が持ち直していくことが期待されておりますが、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れがわが国の景気を下押しするリスクとなっております。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある状況です。

こうしたなか、当社グループは令和3年12月24日に「中期経営計画L S G (Leading to Sustainable Growth) 2024」を公表し、株主価値の更なる向上を目指し、競争力を強化し成長していくため、①投資家に選ばれる会社になるための取り組み強化、②調剤事業を核とした事業展開による収益獲得強化、③経営基盤の更なる強化による収益構造の改善を推進しております。

当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高25,745百万円(前年同期比0.6%減)、営業利益573百万円(前年同期比27.3%減)、経常利益566百万円(前年同期比30.4%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は72百万円(前年同期比71.0%減)となりました。

売上高につきましては、処方せん枚数は増加したものの薬価改定の影響により処方せん単価が下落したことで、前年同期比減収となりました。

利益面においては、上記に加え、調剤薬局事業における仕入条件に係る予算差異の発生、当期に実施した新規出店やM&A等による販管費の増加及び物販事業のドラッグストア部門による売上高の計画未達等を主な要因として営業利益、経常利益ともに前年同期比減益となりました。また、本社関連事務所の効率的運用を鑑み、定期賃貸借契約を解約し特別損失として計上したこと等により、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比減益となりました。

セグメント毎の業績は次の通りであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、当第2四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。変更の詳細につきましては、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報等)セグメント情報 当第2四半期連結累計期間」の「2 報告セグメントの変更等に関する事項」を参照ください。

(調剤薬局事業)

当第2四半期連結累計期間における調剤薬局事業の業績は、薬価改定の影響により売上高は20,932百万円(前年同期比0.3%減)と減収、新型コロナウイルス感染症の影響による受診抑制の緩和を背景とした処方せん枚数の回復の兆しや調剤技術料の算定増加等はあったものの、仕入条件に係る予算差異の発生、当期に実施した新規出店やM&A等による販管費の増加等を主な要因としてセグメント利益は744百万円(前年同期比20.6%減)と減益になりました。同期間における調剤薬局店舗は5店舗増加、1店舗減少で、当社グループが運営する店舗数は305店舗となりました。増加した店舗は、株式譲渡により取得した有限会社映双薬局の2店舗(神奈川県)及び株式会社くすき調剤薬局の1店舗(三重県)、有限会社池本薬局の1店舗(北海道)、ファーマライズ株式会社の新規開局の1店舗(大阪府)であります。

薬局運営面につきましては、選ばれる「かかりつけ薬局」となるために、①地域医療(在宅医療及び施設調剤、地域連携薬局、専門医療機関連携薬局)の実施、②後発医薬品推進、③患者情報の一元管理や重複投与・飲み合わせ・残薬確認強化の観点から電子お薬手帳「ポケットファーマシー」の利用促進、④生活習慣病の予防を継続的に支援していくことを目的とした、当社独自の健康寿命延伸プログラムである「継続支援プログラム」の推進、⑤店舗ごとに特徴・行動計画を打ち出し必要に応じて本部が支援する「コンセプト薬局」施策の開始、⑥かかりつけ薬剤師・薬局の機能に加えて、市販薬や健康食品から介護や食事・栄養摂取に関することまで気軽に相談できる「健康サポート薬局」の継続的な推進、に取り組んでおります。

なお健康サポート薬局は当第2四半期連結会計期間末時点で76店舗(前年度末比5店舗増)となり、地域連携薬局も順調に増加し、122店舗(前年度末比26店舗増)となりました。また、専門医療機関連携薬局につきましても認定取得に向け準備を進めております。

(物販事業)

当第2四半期連結累計期間における物販事業の業績は、売上高は3,857百万円(前年同期比0.1%減)、セグメント損失は129百万円(前年同期はセグメント損失101百万円)となりました。これは、ドラッグストア部門において、主力の医薬品は回復しつつあるもののマスク等の衛生材料等コロナ関連需要の減少が主な要因であります。今後は、同部門においてDX化やeコマースに対する取組みも進めてまいります。

また、同期間における調剤を併設しない本セグメントの当社グループが運営する店舗数は1店舗増加の46店舗となりました。

(医学資料保管・管理事業)

当第2四半期連結累計期間における医学資料保管・管理事業の業績は、主に医療機関における経費削減の動きから紙カルテ等の保管年数の短縮化の影響を受け、売上高は328百万円(前年同期比5.2%減)、セグメント利益は38百万円(前年同期比35.1%減)となりました。一方で紙カルテ等の保管・管理のニーズは継続的に発生していることから、それらの獲得と新たなサービス提供に向けた営業活動を展開しております。

(医療モール経営事業)

当第2四半期連結累計期間における医療モール経営事業の業績は、売上高は252百万円(前年同期比0.0%増)、セグメント利益は減価償却費が減少したことで45百万円(前年同期比39.1%増)となり、安定的に推移しております。

(その他)

当第2四半期連結累計期間におけるその他事業の業績は、医薬品の卸売取引の減収を主な要因として売上高は375百万円(前年同期比14.3%減)、システムインテグレーション事業や医療関連ITソリューション事業等が増益となったことによりセグメント利益は26百万円(前年同期比94.7%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産の残高は23,306百万円となり、前連結会計年度末残高23,746百万円に対し、439百万円減少いたしました。主な要因は、商品及び製品が増加した一方で、未収入金、のれんが減少したことによるものであります。

(負債)

負債の残高は16,614百万円となり、前連結会計年度末残高17,047百万円に対し、433百万円減少いたしました。主な要因は1年内返済予定の長期借入金及び長期借入金が増加したことによるものであります。

(純資産)

純資産の残高は6,692百万円となり、前連結会計年度末残高6,699百万円に対し、6百万円減少いたしました。この主な要因は、利益剰余金が当第2四半期連結累計期間における親会社株主に帰属する四半期純利益により増加した一方で、配当金の支払により減少したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローに関する説明

当第2四半期末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、4,303百万円（前年同期比1,049百万円の増加）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果増加した資金は、1,553百万円（前年同期比1,535百万円増加）となりました。この主な要因は、税金等調整前四半期純利益が394百万円となり、法人税等の支払額又は還付額により資金が437百万円減少した一方で、減価償却費が295百万円、のれん償却額が327百万円計上され、売上債権が566百万円減少したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、448百万円（前年同期比111百万円増加）となりました。この主な要因は、差入保証金の回収による収入が101百万円となった一方で、新規開局等に伴う有形固定資産の取得による支出が201百万円、差入保証金の差入による支出が113百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出が161百万円あったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果減少した資金は、792百万円（前年同期比239百万円減少）となりました。この主な要因は、長期借入による収入が700百万円あった一方で、長期借入金の返済による支出が1,243百万円、リース債務の返済による支出が115百万円、配当金の支払額が132百万円となったことによるものであります。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

令和4年12月29日付で発表いたしました「令和5年5月期第2四半期連結累計期間の連結業績予想値と決算値との差異及び令和5年5月期通期連結業績予想値の修正に関するお知らせ」の通り、最近の業績の動向等を踏まえ、令和4年7月8日付で公表いたしました令和5年5月期連結業績予想を修正してございます。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (令和4年5月31日)	当第2四半期連結会計期間 (令和4年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,991	4,303
売掛金	484	554
商品及び製品	2,237	2,444
原材料及び貯蔵品	65	69
未収入金	3,786	3,026
その他	319	329
貸倒引当金	△5	△5
流動資産合計	10,878	10,724
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,121	3,004
土地	2,616	2,603
その他（純額）	617	607
有形固定資産合計	6,355	6,214
無形固定資産		
のれん	3,220	3,093
その他	409	399
無形固定資産合計	3,629	3,492
投資その他の資産		
その他	3,045	3,027
貸倒引当金	△164	△152
投資その他の資産合計	2,881	2,874
固定資産合計	12,866	12,581
繰延資産	1	0
資産合計	23,746	23,306

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (令和4年5月31日)	当第2四半期連結会計期間 (令和4年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,109	4,281
1年内償還予定の社債	—	1,482
1年内返済予定の長期借入金	2,276	2,044
未払法人税等	429	312
賞与引当金	46	42
店舗閉鎖損失引当金	50	48
その他	1,564	1,631
流動負債合計	8,477	9,842
固定負債		
社債	1,482	—
長期借入金	5,603	5,356
退職給付に係る負債	781	804
資産除去債務	111	114
その他	592	496
固定負債合計	8,570	6,771
負債合計	17,047	16,614
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,274	1,298
資本剰余金	1,529	1,553
利益剰余金	3,811	3,753
自己株式	△210	△210
株主資本合計	6,405	6,394
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△0	△0
退職給付に係る調整累計額	△5	△6
その他の包括利益累計額合計	△6	△6
新株予約権	208	208
非支配株主持分	91	96
純資産合計	6,699	6,692
負債純資産合計	23,746	23,306

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 令和3年6月1日 至 令和3年11月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 令和4年6月1日 至 令和4年11月30日)
売上高	25,903	25,745
売上原価	21,757	21,759
売上総利益	4,145	3,986
販売費及び一般管理費	3,357	3,412
営業利益	788	573
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	1	0
受取手数料	8	14
受取賃貸料	9	8
その他	68	11
営業外収益合計	87	35
営業外費用		
支払利息	35	28
賃貸原価	4	4
その他	22	9
営業外費用合計	61	42
経常利益	814	566
特別利益		
店舗閉鎖損失引当金戻入額	21	—
補助金収入	—	42
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	21	42
特別損失		
固定資産売却損	—	5
固定資産除却損	18	27
減損損失	42	36
固定資産圧縮損	—	41
賃貸借契約解約損	—	103
特別損失合計	60	213
税金等調整前四半期純利益	775	394
法人税等	520	317
四半期純利益	254	77
非支配株主に帰属する四半期純利益	3	4
親会社株主に帰属する四半期純利益	250	72

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 令和3年6月1日 至 令和3年11月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 令和4年6月1日 至 令和4年11月30日)
四半期純利益	254	77
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△0	0
退職給付に係る調整額	△1	△0
その他の包括利益合計	△1	△0
四半期包括利益	252	77
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	249	72
非支配株主に係る四半期包括利益	3	4

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 令和3年6月1日 至 令和3年11月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 令和4年6月1日 至 令和4年11月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	775	394
減価償却費	298	295
減損損失	42	36
のれん償却額	353	327
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△0	△11
店舗閉鎖損失引当金の増減額 (△は減少)	—	△1
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	38	20
受取利息及び受取配当金	△2	△1
受取保険金	△50	—
支払利息	35	28
補助金収入	—	△42
固定資産売却損益 (△は益)	△0	4
固定資産除却損	18	27
賃貸借契約解約損	—	103
固定資産圧縮損	—	41
売上債権の増減額 (△は増加)	△171	566
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△302	△186
仕入債務の増減額 (△は減少)	△847	80
未収消費税等の増減額 (△は増加)	226	213
その他	126	79
小計	539	1,976
利息及び配当金の受取額	1	1
利息の支払額	△34	△28
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△488	△437
補助金の受取額	—	42
営業活動によるキャッシュ・フロー	17	1,553
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△185	△201
有形固定資産の売却による収入	0	11
無形固定資産の取得による支出	△34	△51
長期前払費用の取得による支出	△147	△33
差入保証金の差入による支出	△59	△113
差入保証金の回収による収入	27	101
貸付金の回収による収入	0	0
預り保証金の受入による収入	0	0
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△161
保険積立金の解約による収入	60	—
その他	△0	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△337	△448

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 令和3年6月1日 至 令和3年11月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 令和4年6月1日 至 令和4年11月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入による収入	600	700
長期借入金の返済による支出	△1,339	△1,243
リース債務の返済による支出	△132	△115
社債の償還による支出	△27	—
自己株式の取得による支出	△2	—
配当金の支払額	△129	△132
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,031	△792
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,350	312
現金及び現金同等物の期首残高	4,604	3,991
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,254	4,303

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 令和3年6月1日 至 令和3年11月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	調剤薬局 事業	物販事業	医学資料 保管・ 管理事業	医療 モール 経営事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	21,005	3,860	346	252	25,465	437	25,903	—	25,903
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	21,005	3,860	346	252	25,465	437	25,903	—	25,903
セグメント利益又は損失 (△)	938	△101	59	32	929	13	943	△155	788

(注) 1 その他には、報告セグメントに含まれない人材派遣事業、製薬企業等向けのシステムインテグレーション事業等が含まれております。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△155百万円は、報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

調剤薬局事業及びその他において、減損損失をそれぞれ0百万円、42百万円計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては42百万円であります。

当第2四半期連結累計期間(自 令和4年6月1日 至 令和4年11月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	調剤薬局 事業	物販事業	医学資料 保管・ 管理事業	医療 モール 経営事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	20,932	3,857	328	252	25,370	375	25,745	—	25,745
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	20,932	3,857	328	252	25,370	375	25,745	—	25,745
セグメント利益又は損失 (△)	744	△129	38	45	699	26	726	△153	573

(注) 1 その他には、報告セグメントに含まれない人材派遣事業、製薬企業等向けのシステムインテグレーション事業等が含まれております。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△153百万円は、報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、従来「調剤薬局事業」「物販事業」の各事業内に含めておりました卸売に係る取引においては、各報告セグメントから「その他」セグメントに統合しております。これは経営管理上の意思決定や業績区分を見直した結果、従来のセグメントとは分けて区分することがより適切であると判断したことによるものであります。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

調剤薬局事業において、減損損失を36百万円計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては36百万円であります。